

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成27年度採択分）
「薬理学における日本からの情報発信強化の取組」
（課題番号：15HP1001）

学術団体名：公益社団法人 日本薬理学会
学術刊行物の名称：Journal of Pharmacological Sciences
事業期間：平成27年度～平成31年度

1 取組の概要

・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

Journal of Pharmacological Sciences (JPS) は日本の薬理学研究者の研究成果を公表する国内誌として昭和26年に創刊され、平成4年から国際誌への転換を目指して様々な取り組みを実施してきた。

広く世界から良質な論文を募り、日本発行の国際的薬理学雑誌を目指して平成27年からは、内外の研究者の投稿と論文検索・引用の利便性を向上させるため、Elsevierの科学論文情報サイト (Science Direct) を利用したオープン・アクセス・ジャーナルとして刊行している。

オンラインによる投稿・査読に関して国外の一流誌が有料化を進める中で、JPSはアジア・オセアニア諸国からの投稿を奨めるため投稿・査読料は無料でオンライン無料公開を今後も継続する。

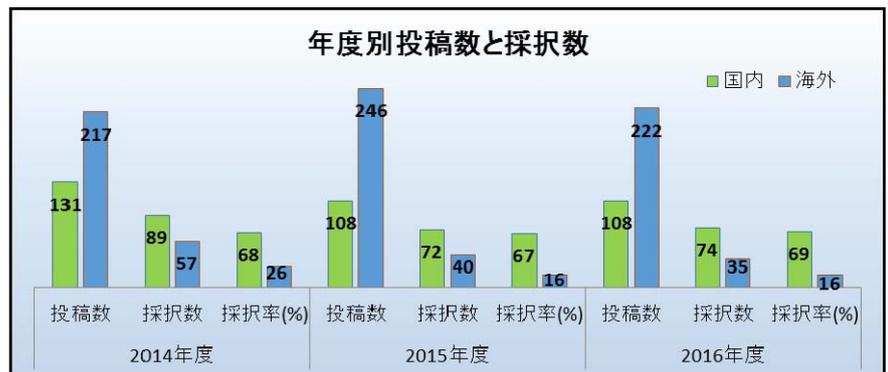
・応募時に設定した取組の目標・評価指標

良質の査読者により掲載論文の国際的価値を維持する編集方針を堅持しながら、1) 海外からの論文採択率を高めること、2) Impact Factor 3.0以上を目指して活動を行う。

2 目標の達成状況

・現在までの目標の達成状況

- 1) 海外からの論文採択率は2015-2016年にかけて16%と変化は無かった。
- 2) 論文採択数は一定程度を保ちつつ、2016年のImpact Factorは2.415に上昇した。Pharmacology & Pharmacy分野256誌中129位、日本のジャーナル247誌中26位である。



・今後の計画

掲載論文の国際的価値を維持する編集方針を堅持しながら海外からの論文採択率を高めるためには、海外からの投稿論文の質向上が必須であり、これは Impact Factorと連動して上昇すると考えられる。論文採択数を保持しながら、国際的価値の高い論文をJPSに掲載し、多く引用してもらうことにより、目標とするImpact Factor 3.0以上の達成は可能と見込まれる。

- 1) 引用率が高い総説を著名な研究者に投稿してもらうこと
- 2) 日本発創薬の特集を組んで他誌にはない雑誌とすること
- 3) 国際学会での広報活動を継続して行うこと

により目標達成を目指す。

2018年の7月1日から6日まで第18回国際薬理学・臨床薬理学会議 (WCP2018) を京都国際会館で開催する。

WCP2018は日本薬理学会と日本臨床薬理学会の共催によるもので、1981年に第8回国際薬理学会議を東京で開催して以来、日本では17年ぶりの開催となる。世界各国から多くの薬理学研究者が集うため、日本の薬理学研究ならびにJPSを広報する英語版、日本語版のパンフレットを作成し参加者に配布する。英語版、日本語版のパンフレットはホームページに掲載し、国内外からダウンロードできる形とし世界に向けた情報発信を行う。

